

報 告

国際歯科材料会議 2011 (IDMC2011)
講演会報告

国際歯科材料会議 2011 (International Dental Materials Congress 2011, 略称 IDMC2011) が第 57 回日本歯科理工学会学術講演会と大韓歯科器材学会 2011 年年次大会との併催として、韓国、ソウル市の延世大に於いて 2011 年 5 月 27 日(金)～5 月 29 日(日) に開催された。国際歯科材料会議は 2007 年にタイ王国バンコクでの開催以来 4 年ぶり、2 回目である。本会議は日本歯科理工学会と大韓歯科器材学会との共催学会として、大韓歯科器材学会会長の Kwang-Mahn Kim 教授を大会長、本学会会長の 榎本貢三教授、大韓歯科器材学会前会長の Tae-Sung Bae 教授を組織委員長として、“Moving Dental Materials from the Laboratory to the Clinic” をテーマに開催された。

本大会には日本をはじめ、韓国、中国、タイ、マレーシア、トルコ、メキシコ、アメリカ合衆国、サウジアラビアなど数多くの国々から合計 275 演題の申し込みがあり、参加者も 420 名を超える大盛況となった。

大会第 1 日目は学内の Allen Hall and Garden にて、開会式が行われ、大会長の Kim 教授、韓国歯科医師会会長の Se-Young Kim 氏などの挨拶の後、園内で歓迎レセプションが開催された。会場が医学部病院の裏手にあり若干わかりにくいところであったため、道筋に案内のスタッフが立っていたが道に迷われた先生方が多く、ご迷惑をおかけしたことをここでお詫びしたい。

大会 2 日目は医学部病院隣の Eun-Myung Auditorium にて午前 “New Concept of Implant Design and

Characteristics” として 3 題、午後には “Esthetic Restoration using CAD/CAM Technology” の 4 題の特別講演が行われた。また、午前中はインプラント 20 題、金属 33 題、生体適合性 30 題の、午後にはセラミックス 22 題、CAD/CAM 3 題、器具その他 28 題のポスター発表が行われた。さらに午後には Young Investigator Award に応募された 62 題から書類選考された 15 題についてポスターディスカッション形式での審査が行われ、7 演題が優秀論文として選考された。

バンケットは漢江を川面から満喫するディナークルーズであった。学会場からバスで移動した船上では、ソウル歯科医師会長の挨拶、韓国民謡などのアトラクションと Young Investigator Award の表彰が行われ、韓国料理をはじめとする国際的な料理とワインを堪能し、国際色豊かで和やかな雰囲気で行われた。

大会 3 日目は 3 つの口頭発表会場で 37 題の口頭発表が行われた後、接着 17 題、コンポジットレジン 25 題、ポリマー 29 題のポスター発表が行われた。その後、Kwang-Mahn Kim 大会長の挨拶で閉会となった。

国際歯科材料会議 2011 は、大韓歯科器材学会の Kwang-Mahn Kim 会長、Tae-Sung Bae 前会長と大会準備副委員長として実務を担当された Yeong-Joan Park 副会長を始め、多くのスタッフのご尽力により、また、日本歯科理工学会からは大会参加者への参加費の補助、多くの関連企業からのご支援、日本の IDMC2011 準備委員会のご協力により、成功裏に終了することができました。計画の立案から膨大な作業をこなされた先生方、スタッフの方々に心よりお礼申し上げます。本会議の報告といたします。

高橋英和

(国際歯科材料会議 2011 準備委員会副委員長、
東京医科歯科大学歯学部口腔保健工学専攻)

